

●三位一体後第十一主日

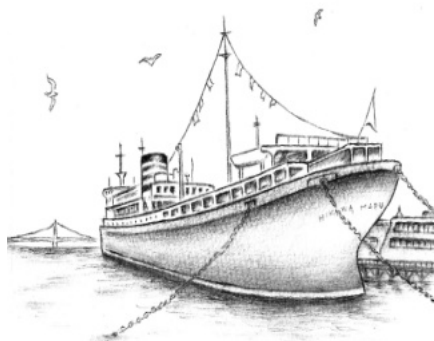
泉のほとり

今月の詩編「第百十一編」

主を畏れることは知恵の初め。

これを行う人はすぐれた思慮を得る。

主の賛美は永遠に続く。



祈るときには

聖書全体の中で、「祈り」という主題で、特にそのあり方について直接語られている箇所は意外と少ないものです。マタイによる福音書6章がその最初の教えではないかと思いますが、主イエスが「主の祈り」に先立って「偽善者のようであつてはならない」と戒められたことは注目すべきところです。「祈りが偽善者のようであつて」は信仰の業ではなく「信仰を装った業」となり、それは神を信頼しない不信仰以上に深刻なものにならないでしょうか。

ここで問題とされているのは、祈る本人に「人に見てもらうために祈っている」との自覚がない偽善です。自分自身のこと自分の目に隠されて見えないう、これが聖書の教える偽善の恐ろしさです。教会の中では祈りが信仰を計る尺度となることが少なく、人からのよい評判を聞くと、いつのまにか人の目を意識して祈ることにつながってしまいます。人がいるところでは、どうしても自分がどう見られるかを気にし、表情や言葉遣いや評判を意識してしまう弱さが人にはあります。

主イエスは「だから、祈るときは、奥まった自分の部屋に入つて戸を閉め、隠れたところにおられるあなたの父に祈りなさい」と教えられました。これは、完全に神と二人きりになり、祈る姿が人に評価されることもない、人の関わりの余地のない時にするということです。人は常に人と関わって生きるゆえに、人前での振る舞いが常態化し「偽善」とも思わなくなりますが、祈りの時は、人が偽善を当たり前に生じることから我に返り、本来の自分に立ち返る時です。

奥まったところは、自分を飾ろうとすることが意味をなさない、偽善が不自然に感じるところです。自分の肩書きも、心にある悪や恥ずかしいことも真実に表さなければ不自然に感じるその場所は、完全に自分でいられる「自由」と「平安」が伴う時です。

「隠れたところを見ておられるあなたの父が報いてくださる」とあるように、神がご自身を直に表してくださる深い交わりこそ、祈りの最高の報いではないでしょうか。

また、主は「異邦人のようにくどくどと述べてはならない」と教えられました。実体のない空想の神々に祈る異邦人は、応答がないゆえに、言葉数や苦行など自らの熱心さという「業」に頼つて祈ります。主は「父は、願う前から、あなたがたに必要なものをご存じなのだ」とも語られました。祈りという「形」も異邦人の真似をするだけでなく、その願う内容も、異邦人が願い求めるような祈りだったようです。あらゆる思い悩みの中、異邦人のように長い祈り、言葉数で自分の熱心さを表して祈る民に「父は、願う前から、あなたがたに必要なものをご存じなのだ」と語られたのです。そして「だから、こう祈りなさい」と主の祈りを教えてくださったのです。

主の祈りは日の下での幸いを願う祈りではなく、御名が聖とされ、自分の中に御国が宿り、人を赦すことを願う祈りです。父の御心のみが実現することを願う、この祈り以上に人がなすべき祈りはありません。言うまでもなく、主の祈りを100回祈ればよいというような話ではありません。祈りは言葉の数ではなく、言葉から始められつつも言葉を超えるものでなければならぬのです。私たちは、主イエスの十字架こそが「主の祈り」であつたことを心に刻みたいのです。十字架は、父の御心のみが実現することを願う「主の祈り」を自分の願いとして「生きる」その生き様が、私たちの祈りになるようにと教えています。

その祈りの道筋へ進むために、まず主が教えられた最初の教え、すなわち「奥まったところへ入り、隠れておられる天の父へ」と言われる主のことばを心に刻みたいのです。人の偽善が入る余地のない神の前で、自分の心の裸をもさらけ出す交わりが祈りの土台となり、その深い交わりが、十字架に表された「主の祈り」を生きる者へと私たちを進ませるのです。

《私たちのビジョン》

主イエスの愛の中で、

愛と交わりを通して

お互いに成長する教会

《2026年度

教会全体課題》

神さまによって

示された新しい歩みの中で、

キリストの体としての一致を

祈り求める

ーコミュニケーション、交わり、

伝道、学びなどを通してー

《今日のお知らせ》

○礼拝後、熊本地震の救援募金を礼拝堂エントランスにて集めますので、お志のある方はご協力をよろしく願います。

《ぶどうの会より》

ぶどうの会を第二・三シオンルームで行います。

《ロビーの会より》

本日の礼拝後、ロビーでコーヒーマービスを行います。ホットコーヒーマーとお菓子を七〇円で販売しますどうぞお越しください。

《祈りの会より》

次週二三日、祈りの会を第二・三シオンルームでぶどうの会終了後（一二時三〇分頃予定）開催します。皆さまのご参加をお待ちいたしております。

《シオンの会より》

八月一九日（水）一〇時三〇分～一二時シオンの会を地下ホールで行います。（オンラインも併用します。）テキスト「使徒言行録を読もう」P.一一七 一六ひとつひとつの教会を主に委ね（一四章二一節～二八節）を読みます。新しく参加をご希望の方は川越啓子姉までご連絡ください。

《交 読 詩 篇》

※会衆は太字の箇所を唱和します。

（司・会）の箇所は司式者と会衆が合わせて唱和します。

【詩篇百十一篇】

（司・会）

ハレルヤ。

わたしは心を尽くして主に感謝をささげる

正しい人々の集い、会衆の中で。

主の御業は大きく

それを愛する人は皆、それを尋ね求める。

主の成し遂げられることは栄え輝き

恵みの御業は永遠に続く。

主は驚くべき御業を記念するよう定められた。

主は恵み深く憐れみに富み

主を畏れる人に糧を与え

契約をとこしえに御心に留め

御業の力を御自分の民に示し

諸国の嗣業を御自分の民にお与えになる。

御手の業はまことの裁き

主の命令はすべて真実

世々限りなく堅固に

まことをもって、まっすぐに行われる。

主は御自分の民に贖いを送り

契約をとこしえのものと定められた。

御名は畏れ敬うべき聖なる御名。

主を畏れることは知恵の初め。

これを行う人はすぐれた思慮を得る。

（司・会）

主の賛美は永遠に続く。

《今日の子ども礼拝》

●子ども礼拝（午前9時20分・地下ホール）

説教 「天地の造り主、わたしの造り主を信じる」

聖書 創世記1章1節

説教者 宮間 彰広 兄

《次週の礼拝》

●子ども礼拝（午前9時20分・地下ホール）

説教 「エデンの園」

聖書 創世記2章18～23節

説教者 宮間 彰広 兄

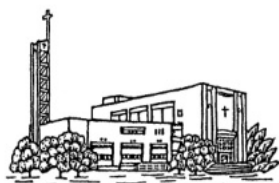
●主日礼拝（午前10時30分・礼拝堂）

讃美歌 15番 532番

説教 「救われた喜びを生きる」

聖書 ルカ7章36～50節

説教者 吉村 和雄 名誉牧師





主日礼拝 (午前10時30分)

讃美歌 11番 327番
説教 「気を落とさずに祈る」
聖書 ルカ18章1～8節(新約 P.143)
司式 山下 純一 兄
聖餐司式 黄 允湜 牧師
説教者 黄 允湜 牧師

前奏曲「前奏曲とフーガへ長調」D.ブクステフーデ

○讃美歌11番

- 1.あめつちにまさる かみの御名を
ほむるに足るべき ころもがな
- 2.おごらず てらわず へりくだりて
わが主のみくらと ならせたまえ
- 3.生くるも死ぬるも ただ主をおもう
ゆるがぬころを あたえたまえ
- 4.ころをきよめて 愛をみだし
わが主のみすがた 成らせたまえ
- 5.みめぐみゆたけき 主よ、きたりて
ころに御名をば したるしたまえ
アーメン

○讃美歌327番

- 1.あだはかこむとも われおそれじ
あやうきおりにも 神にまかせん
- 2.ころみのときも つぶやくまじ
うれいのなかにも かみにまかせん
- 3.闇路をゆくとも うたがいなく
あらしのうちにも かみにまかせん
- 4.せまきまさみちを ふみまよわで
世を去るときにも かみにまかせん
- 5.かみによりたのむ わがころは
いまよりみくにの さらに住めり
アーメン

聖餐曲「天にまします父なる神よ」J.S.バッハ

後奏曲「私のあがない主は生きている、栄光ハレルヤ！」
D.ウット